

コートジボワール（2023年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在コートジボワール日本国大使館](#)

1. 2021年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2021年度日本語教育機関調査結果

機関数	教師数	学習者数								
		合計	初等教育		中等教育		高等教育		その他教育機関	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
4	5	634	0	0.0%	363	57.3%	250	39.4%	21	3.3%

(注) 2021年度日本語教育機関調査は、2021年9月～2022年6月に国際交流基金(JF)が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

1994年に、アビジャンのココディ大学（現フェリックス・ウフエ＝ボワニ大学）で日本語コースが開講されたが、同コースは内戦により2003年に中止。2005年には、アビジャンの私立中学・高校 MISA（Management Informatique Sports et Arts）で入門レベルの日本語講座が開講。2012年以降には、コートジボワール第二の都市ブアケのアラサン・ウワタラ大学、アビジャンの私立中学・高校グループ・スコレール・ニッポン（Groupe Scolaire Nippon）、ブアケの私立中学・高校グループ・スコレール・エスペランス（Groupe Scolaire Espérance）で入門～初級レベルの日本語講座が開講された。なお、MISAは2020年、学長が他界し閉校した。また、上記グループ・スコレール・ニッポンは2023-24年、日本語の授業を行っていない。

背景

日本に対する理解度は一般に高いとは言えないが、日本のアニメは、仏衛星放送（Canal+）やインターネットを通じて簡単に視聴できるためマンガと共に、特に、子どもや若者の間で人気が高い。また、電化製品や自動車などをはじめとする日本の技術力の高さに対する信頼は厚く、経済成長の歴史への関心も高い。なお、柔道・空手は、両連盟が活発に活動しており、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会開催により、さらに注目を集めており、日本武道に対する関心と認知度も高まっている。

特徴

コートジボワールでは、元国費留学生や JF の研修で日本に滞在した経験のあるコートジボワール人教師らが日本語授業を行っている。2019 年 5-6 月にはブアケのアラサン・ウワタラ大学のンドゥリ・アルフォヌス・ルノー教師が JF の日本語教師研修に参加した。また、2023 年には、グループ・スコレール・エスペランスのクアメ・アモアン・マリ＝ミシェル氏が、同研修に参加した他、アラサン・ウワタラ大学のンゲッサン・ヤオ＝マリウス・セドリック氏が日本語学習者訪日研修（各国成績優秀者）に参加した。

現在、アビジャンとブアケの複数機関において、入門～初級レベルの日本語授業が行われている他、インターネットなどを通じ独学で日本語学習に取り組む学習者も存在する。

なお、2023 年に新規開始した文部科学省の国費留学教員研修生（教研生）プログラムには、上記ンドゥリ・アルフォヌス・ルノー教師が選考され、現在岐阜大学で日本語教授法をテーマに研究に従事している。

最新動向

2023 年 6 月、アビジャン市のフェリックス・ウフエ＝ボワニ大学内に日本の支援によって整備された、日本語教育・日本研究振興センター（通称ジャパン・コーナー）が設立され、9 月から第一回日本語教育（入門コース・3 ヶ月）が開始された。2024 年 2 月からは、第二回日本語教育が行われている。

2024 年 2 月には、令和 5 年度草の根文化無償「アラサン・ウワタラ大学日本語教育・日本研究振興センター整備計画」の署名式が執り行われ、同年中に同センターを設立の予定。

2016 年 12 月に、アビジャン市にある国際バイリンガル・アフリカ大学（Université Internationale Bilingue Africaine）にて、コートジボワールで初めての日本語能力試験（JLPT）が実施されて以来、コートジボワールでは毎年同試験が実施されている。2020 年については、新型コロナウイルスの影響により中止となったが、2021 年には再開が決定され、同年及び 2022 年には、アビジャン郊外の私立エフラタ大学で実施された。2023 年は、新たに設立されたジャパン・コーナーにて実施された。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

アビジャンの私立グループ・スコレール・ニッポン（2023-24 年は休講中）及びブアケの私立グループ・スコレール・エスペランスにおいて、日本語授業が行われている。なお、2021 年日本語教育機関調査結果によると、グループ・スコレール・ニッポンでは 193 名、グループ・スコレール・エスペランスでは 170 名の生徒が日本語

を学んでいる。

高等教育

ブアケの国立アラサン・ウワタラ大学において、外国語の選択科目として日本語授業が行われている。なお、同大学は、仏語圏アフリカで唯一日本語の単位を取得することができる国立大学である。2021 年日本語教育機関調査の結果によると、250 名の学生が日本語を外国語選択科目として学んでいる。

学校教育以外

日本文化愛好者のサークルとしてアビジャンで立ち上げられた明治文化学院では、主に成人を対象とした初級日本語授業が週 1 回実施されている。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

6-4-3 制。

小学校が 6 年間（6～12 歳）、前期中等教育機関の中学校が 4 年間（12～16 歳）、後期中等教育機関の高校が 3 年間（16～19 歳）でバカロレア受験。

その後の高等教育機関は次のサイクルで進級する。

- 第 1 サイクル：学士（3 年）
- 第 2 サイクル：修士（2 年）
- 第 3 サイクル：博士（3 年）

ほかに技術学校（2 年）、エンジニア養成学校（3 年）、公務員養成学校 ENA（2 年、ただし入学には 3 年の職務経験を要する）、教員養成学校 ENS（小学校、中学校、高校用）がある。

教育行政

初等、中等教育機関：国民教育省が管轄している。

大学、グランゼコール：高等教育・科学研究省が管轄している。

言語事情

公用語はフランス語。その他、約 60 の民族語が存在する。

外国語教育

6 年間の初等教育課程においてはフランス語のみを履修する。

4 年間の中等教育課程のうち、前半 2 年は英語（必修）、後半 3 年は英語に加え、第二外国語（ドイツ語またはスペイン語）を履修する。

高等教育では、中等教育課程で選択した 2 言語（英語とドイツ語またはスペイン語）を引き続き履修する。

外国語の中での日本語の人気

他の外国語（英語、ドイツ語、スペイン語）と比較すると学習者の数は少ないが、一部学生や一般市民の間で日本語学習に対する関心が高い層が存在する。2012年12月に日本大使館が第一回日本語弁論大会を開催したところ、コートジボワール初の日本語弁論大会で応募者数は少なかったものの、最終選考を通過した発表者たちの日本語レベルは非常に高いことが明らかになった。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

アビジャンの私立中等教育機関グループ・スコレール・ニッポンでは、日本語教師歴9年の教師が作成した自作教材、ブアケの私立中等教育機関グループ・スコレール・エスペランスでは、日本語教師歴約4年且つブアケのアラサン・ウワタラ大学言語学部修士号取得の日本語教師が作成した自作教材が使用されている。

高等教育

国立大学アラサン・ウワタラ大学では、『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）を使用。

学校教育以外

明治文化学院では、『Grammaire japonaise systématique』（J.Maisonneuve）の他、グループ・スコレール・ニッポンの日本語教師が作成した自作教材を使用。また、インターネット上の教材なども併せて使用している。ジャパン・コーナーの日本語教室では、『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）を参考に、講師が独自に作成した教材を使用している。

IT・視聴覚機材

2020年現在、日本語教育へのIT・視聴覚機材の使用は確認されていない。他方、2023年6月に設立されたフェリックス・ウフエ＝ボワニ大学内の日本語教育・日本研究振興センター（ジャパン・コーナー）では、日本語学習用の視聴覚機材が配備されている。

大学及び私立の語学学校では、インターネットを利用した情報収集の方法を指導しているほか、日本語学習のサイトやアプリ、日本関係のサイトなどを学生に紹介している。学生との連絡や宿題の提出をEメールで行うこともある。

5.教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

JF の研修で日本に滞在した経験のあるコートジボワール人教師が日本語を教えている。

高等教育

元国費留学生及び JF の海外日本語教師研修に参加した経験のあるコートジボワール人教師が教えている。

学校教育以外

元国費留学生及び JF の海外日本語教師研修に参加した経験のあるコートジボワール人教師が教えている。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムはない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

日本語のネイティブ教師は雇用されていない。

教師研修

2023 年からは、文部科学省の国費留学生募集の新規プログラムとして、教員研修生（教研生）選考が実施されている。

6.教師会

教師会は存在しないが、現地の日本語教師が主体となって 2018 年に日本語教育の普及を目的とした緩やかなネットワーク（Association des enseignants bénévoles de langue japonaise）が作られ、ヤムスクロで会合が開催された。しかしながら、それ以降、同教師会は特段目立った活動を行っていない。

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICA からの派遣は行われていない。

その他からの派遣

(情報なし)

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

9.評価・試験

評価・試験の種類

2016 年 12 月以降、日本語能力試験（JLPT）が実施されている。

10.日本語教育略史

1994 年	アビジャンのココディ大学（現フェリックス・ウフエ＝ボワニ大学）にて日本語コース開講
2003 年	内戦により上記コースが中止
2005 年	アビジャンの私立中等教育機関である MISA が入門レベル日本語講座を開講
2009 年	日本文化愛好者サークルであるである明治文化学院が入門レベルの日本語講座を開講。 また、私立中等教育機関であるグループ・スコレール・ニッポンが日本語教育を開始
2012 年	ブアケの国立アラサン・ウワタラ大学で外国語の選択科目としての初級日本語講座開講
2015 年	国立アラサン・ウワタラ大学は、JF が日本語教育機関として認定する「さくらネットワーク」に加盟
2016 年 12 月	日本語能力試験（JLPT）を実施（以降、現在に至るまで、コートジボワールでは毎年 12 月に同試験を実施）
2020 年	MISA がコロナ蔓延中に学長が他界し閉校

2012 年

ブアケの私立中等教育機関グループ・スコレール・エスペランスが日本語教育を開始

2023 年

アビジャンのフェリックス・ウフエ＝ボワニ大学内に設立された日本語教育・日本研究振興センター（ジャパン・コーナー）が日本語教育（3 か月コース・年 2 期）を開始。